

解説 06 街の多文化状況を調べる

【課題のねらい】

日本社会に住む外国人の現状に興味を持ってほしいというのがこの課題のねらいです。みなさんは、外国人というとどんな人を想像しますか？ 英語を話す欧米系の人だけではなく、日本社会にはいろいろな外国の方が住んでいます。それらの方のために外国語の情報発信が行われていたり、日本語教室が運営されていたりします。多文化共生社会の第一歩は、自分の住んでいる街を知ることです。

外国人に日本語を教える日本語教師という仕事があります。その日本語教師に関わる学問分野を日本語教育と言います。日本社会が今どうなっていて、どういう問題があり、外国人支援には何が必要かといったことを学ぶのですが、そういった学問分野に興味を持ってもらうことも本課題のねらいの一つです。

【解説】

課題に合わせて横浜市を例にして調べてみましょう。横浜市のウェブサイトにはエクセル資料が月ごとにアップされています。資料を開くと、住んでいる外国人の国籍は、1、中国 2、韓国 3、フィリピン 4、ベトナム 5、ネパールとなっています。平成 30 年の記録では、外国籍住民が 97540 人に対して全人口が 3740172 人ですから、計算すると 2.6% となります。全国平均が 2% くらいなので、外国籍住民が多い街ということになります。

次の課題は、ウェブサイトの表示言語です。横浜市の場合は、日本語以外に「英語、中国語（簡体字、繁体字）、朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語」が選択できるようになっています。情報の量は多くありませんが、「やさしい日本語」による情報提示もしています。これは日本語をわかりやすく書いたものです。普通の日本語とどこが違うか読み比べてみてください。NHK が毎日「やさしい日本語」による情報発信を行っており、興味がある人は次のウェブサイトを一度のぞいてみてください。

NEWS WEB EASY – NHK <https://www3.nhk.or.jp/news/easy/>

最後の課題は、日本語教室でした。横浜市内で検索すると、日本語教室を検索するためのサイトが出てきます。つまり非常にたくさんあるので、整理するためのサイトがあるということです。そこを見ると 130 以上の教室があり、各区の中心地には必ず教室があります（ちなみに東京都には 200 以上の教室があります）。これらの教室ではボランティアの方が日本語指導にあたっています。近所に教室が見つかったら、ちょっとのぞいてみてはどうですか？ 日本人ボランティアさんは高齢化しているので、若い人が来ると大変歓迎されますよ。